

息を吹きかける

ヨハネ 20 章 19-23 節

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

説教

面従腹背（めんじゅう-ふくはい）ということばを久しぶりに聞きました。表向きは従っている、ペコペコしているけれど、腹の中ではアツカンベーしている、本当は背いているという意味でわたしは理解しています。

うわべだけ上の者に従うふりをしているが、内心では従わないこと。▽「面従」は人の前でだけ従うこと。「腹」は心の中のこと。「背」は背くこと。

貼り付け元<<https://dictionary.goo.ne.jp/leaf/idiom/%E9%9D%A2%E5%93%E8%85%B9%E8%83%8C/m0u/>>

テレビニュースで前川前事務次官が自分の座右の銘は面従腹背だと語っていました。

私にはできないけれど、「しもべ」の態度というか処世術としてはうまいやり方だなあと感心しました。わたしも何人か知っているのですが、やたらに腰の低い人はいます。そんな人と接していると、どこか信用できない、落ち着かない気分になるのですが、面従腹背しているのかとおもえば理解できま

す。

さて、「赦し」という教えはキリスト教の肝の部分のひとつです。

「赦し」は上から目線で「かんべんしてやる、赦してあげる」というニュアンスがあります。仮に下から目線の赦しがあるとすれば、その一つに面従腹背があるのかなあと思いました。しかし、これでは馬鹿なこと言ってるけど、後で見てろよ、というニュアンスになってしまいます。

ふつうは「誤れば赦してあげる」です。逆に言えば、誤らなければ赦さない、誤らないので許さない、となります。また謝り方が気に入らないので許さないという場合もあります。まあ、そこらへんは人によっていろいろです。でもしもべ、奴隷にしてみればご主人様のいうことは赦すも許さないもありません、ただ従うだけです。面従腹背にならないとやっていけないことも多いでしょう。そういう意味で下からのひねくれた赦しとしてありかなと思えます。

しかし、聖書を読むと違うようです。「ヨブ記」では面従腹背なんてどこ吹く風とヨブは神さまに食って掛かる様子が記されています。とことん神とやりあうヨブに対して、神さまも根気よく付き合いハッピーエンドで物語は閉じています。

彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」ヨハネ 20:22-23

復活のイエスはこう語りました。無条件の赦しこそ福音、イエスが告げていた福音です。復活のみ姿を弟子たちの前にあらわしたイエスは聖霊を吹きかけ、与えて弟子たちに再度みことばを語ってくれました。

「聖霊」不足だなあと、つくづく感じます。しかし、きょうは聖霊降臨の主日です。希望をもちましょう。わたしたち一人ひとりが、主の息吹をうけて主に従うことができますように。